



Book Review

評者: 薬袋淳子 岐阜医療科学大学看護学部教授

事例から学ぶ地域・在宅看護論 訪問時のお作法から実習のポイントまで

著: 篠崎恵美子・藤井徹也 / 定価: 2420円(本体2200円+税10%)
発行: 医学書院 / TEL: 03-3817-5650



多くの事例をとおして、地域・在宅看護の基本が学べる

本書は、著者・篠崎恵美子氏と藤井徹也氏が、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正を見越して執筆された書籍である。10年以上ぶりの看護基礎教育の見直しで、統合分野「在宅看護論」が、基礎看護学に続く「地域・在宅看護論」へと変更された。この授業で「すぐに使える本が欲しい」といわれたら、私は本書をおすすめしたい。

目次をみると、第1部は「実習に行く前に知っておきたい地域・在宅看護の基本」、第2部は「事例を通して地域・在宅看護を学ぶ」となっており、どのような内容が盛り込まれているのかがイメージできる。章立てをみると、基本的マナーや情報収集のポイントなど、学生が知りたいことがかなり具体的に書かれている。たとえば、療養者の自宅を訪問するときのマナーについては、「インターホンを鳴らしてから一呼吸おく」「玄関を出た後も気を抜かない」など、まさに学生に必ず伝えておきたいツボが取り上げられており、さすがである。“できて当然”という行動が教員の思い込みであることを再確認させてくれる。また、器具の写真やわかりやすいイラストが随所に盛り込まれているため、インパクトのあるテーマと併せて、学ぶ側の記憶に定着しやすい内容になっていると思う。

最大の魅力は、多くの事例をとおして、地域・在宅看護の考え方や対象について学ぶことができ、看護師にとって最も重要なコミュニケーションスキルをも学べ

る点にある。地域・在宅看護論で学ぶテーマから5つを取り上げ、それぞれについて3事例ずつ計15事例について、「生活の視点・看護の視点」「課題の解説」「対応のポイント」「対応の実践例」が非常にていねいに説明されている。事例1つひとつに、教員からは“あるある”、学生からは“なるほど”という声が聞こえてくるようである。特に、地域・在宅の状況で活かせるフィジカルイグザミネーションのポイントは、著者らが専門とする分野でもあり、非常にわかりやすく書かれている。なかには、看護学生がまれにしか経験できない事例も含まれており、まさに看護を教授する教員と学ぶ学生にとって、かゆいところに手が届く書籍といえる。

本書は、わが国の超高齢社会における疾病構造の変化、療養の場の多様化、地域包括ケアシステムの推進を背景に、看護基礎教育において看護の対象そのもののとらえ方が「療養する人々」から「生活する人々」へと変わっていく状況のなかで、初めて地域・在宅看護を学ぶために、そして学年が進んでも活用できる書籍であると考えられる。初学者対象を謳いながら難解な書籍も数多くあるが、本書にはその心配はない。初めて地域・在宅看護を学ぶ学生も、序盤の章から容易にイメージができ、“楽しく・正しく・ためになる”内容になっており、幅広い看護領域で活用できる、おすすめの書籍である。